



いたわり

2012年2月号 No.133

くおりのキュート(救)健康新聞

第17回 マザ-の会 (子育て相談・母乳育児・子育て相談)

〈日時〉2月1日(水) 午後2時~4時

〈講師〉むなかた助産院 助産師 賀久まつ先生

第246回 「くおりのキュート 玉名店 健康教室」

〈日時〉2月23日(木) 午後2時~3時

〈場所〉くおりのキュート 玉名店 2階 健康教室 (マザ-の会も)

くおりのキュートの健康教室

「503」101日本30日の体験談



37才。女性。Mさん。おと産婦人科に通って不妊治療をされてきたが、授けられない。お姑さんがキュートの前々のお客様で色々な症例を聞いていて、キュートで相談するよう勧め、今年の5月にやと来られた。卵巣の働きが悪く卵子がちゃんと育たないという事。妊娠しやすくなる体作りとバイリンクと漢方で体質改善を始めた。8月に実母の胃癌が検診でわかり、すぐ相談に来られ「503しかない」という事。お母さんに届ける。お母さんも希望を持って

術前から、503をしっかり飲んで手術に臨まれた。胃を全摘したかと思えば、良く回復も早い。全摘の為何も食べられないが、栄養失調に悩んでお母さんもおく元気!「不思議でたまらない。先生503こそスゴいぞ」とお母さんの元気な姿を見て、Mさんは自分が飲まれる決意をしました。10月に卵子を採取して体外受精をしてちょうど1ヶ月後に子宮に戻すので1ヶ月間飲んでみます!と。1ヶ月後に来店「先生、子宮の状態が悪くなり受精卵を戻せなかったぞ。503は絶対悪さはしないぞ。今まで医学的な治療でストレスを受けて子宮内が再生している段階だと思ってる。もう1ヶ月続けてみましょう。きれいな子宮に生まれ変わるチャンスだよ!」...1ヶ月後の12月「また戻せませんでした。でももう1ヶ月続けます」

そして1月21日来店「先生!自然妊娠しました!!!今5週目です!」...号泣しました。体外受精をしないと授けられない体だったMさん、なんと自然妊娠されたのです!去年、半水が半分になって医師から90%助からないと言われてたのが、やはり503で助かり無事に出産され元気にスクスク育っています。どいまでもどいまでも命に命をかける503!今もMさんのお腹の中で503のエネルギーを吸って毎日成長しているMさんの赤ちゃんも元気に出てくるのを待っていますよ~♡

ガンと言われた時に、何を考えるか?

「ガン」と診断された時に、何を考えどう対応するか...それによつてガンのその後の展開と予後は決まります。あの世に行く人から元通り元気に戻る人もピンからキリまで分かります。「ガンですよ」と言われると、これから先の事が不安になったり、じりじりになったりする人は多いでしょう。当然の事とは言っても、**心配・疑う・迷う・イライラ**といった御法度のじりおこしてはる生命力は落ちて、病気の展開は現代医学の常識の通りか、それ以下にしかたまりません。じりじり落ち込みの程度に比例して、悪性度も重症になり、いい事はひとつもありません。ガンの腫瘍もまた体の一部ですから**敵対しないで仲よく共存しよう**という選択もあります。共存、共生は成立するのですが、それには条件があります。ガンができるまでに歩いてきた過程はほとんどが**いのちのあり方、食生活**に問題があるケースですが、それだけかどうかが、そしてその対応次第で決まります。

ガンと決めつけられても、**ガンを無視**によつた事は一切考えないで、**開き直れる人**はガンの展開、顛末は、現代医学の常識とは全然違ったものになります。ガンも相手にしないで**完全に開き直れる人**は、腫瘍も病気もきれいに消滅させることができます。生き甲斐に目覚めて心から没頭できる人もまた、**同様にガンを消去**することができます。人間の持つ生きる力の強大な働きは驚くばかりで、**人智を越えた**ものであります。強い生命力を得て維持するには、何と言っても**想いのあり方**が重要ですが、一方で**食生活と環境**や生活の仕方、少なくともポイントを押さえておく必要があります。**人の体はどんな状態になっても常に正しく働きます**から偶然に病気になるという事は絶対にありません。必ず、**ガンになる過程を歩んで**なるべくしてガンになります。いのちのあり方、食生活に**問題がある事に気づき、検証するべく努力すれば**物は治つたようなものです。

ガンを悪性と考えていると...100%考えているようにしかたまりません。ガンですよと決めつけられたら、ガンの進行度の問題でなく、つまる所、その人の**生き方が問われている**のです。ガンと言われたら、毎日心掛け実行すべき事があります。

- ① 御法度のじり(憎む、ねたむ、さねむ、うらやむ、怒り、じりこする、不平、不満、どがめ、疑う、迷う、呪う、いらいらする、せかせかするじり)をおこさない、おきたらすぐに断ち切る。間違えをひきおらないようにする。
 - ② おバこのことに感謝と畏敬の念を
 - ③ いつもの正しい言葉を使うこと。人を傷つける言葉は使わない
 - ④ 居住空間を気のいい、波動のいいところにしておくこと。
 - ⑤ 気の悪い、波動の悪い場所や人には近づかないようにする。距離を置くように
 - ⑥ 毎日熟睡するようにする。しっかり睡眠できるように生活を調整する
 - ⑦ フラッシュ思考で毎日たくたく、明るく、おめでたく
 - ⑧ 妄想しない、よけいな事は考えないこと。
- ...上記のような事が大体できたらガンなどの病気になる確率もずいぶんその時点できれいになくなっていきます。ガンという白黒のはっきりした、しかも勝負の早い病気を「いのちのあり方」と「食生活」が大きく反映する病気だと思えます(むすび 2月号より)



伊藤慶二 いとうけいじ

1929年生まれ。九州大学医学部卒業。医学博士。マクロビオティック医学研究会初代会長。医療法人至誠会梅田病院院長、勝間クリニック院長を歴任、産婦人科医師として、全国にさきがけて1966年から母親教室を開き、食生活の大切さを説いてきた。現在は山梨県の大自然の中に住み、文筆活動などに活躍している。

